

不祥事根絶のための行動計画

北 広 島 町 立 芸 北 小 学 校
作成責任者 校長 熊野尚子

不祥事根絶に向けた本校の決意

- 私たちは、教育公務員としての自覚をもち、法令等を遵守します。
- 私たちは、児童が安心して学び、生活できる学校を創ります。
- 私たちは、心理的安全性のある職場づくりに心がけます。
- 私たちは課題を速やかに発見し、チーム一丸となって解決に向けて動きます。

区分	本校の課題	行動目標	取組内容	点検方法・時期
立 教 職 員 の 規 範 意 識 の 確 立	・規範意識に差があっても互いにそれを指摘できないことがある。 ・長時間勤務になる傾向がある。	○常に教育公務員としての自覚をもち法令を遵守する。 ○「児童の安全を守る、学校への信頼を裏切らない」という観点から、不適切だと思うことは互いに指摘し合うことができる。 ○気持ちよい挨拶ができる。 ○締め切りを守る。 ○長時間勤務を縮減する。 ○年休を取りやすい職場づくりをする。	○地道に啓発を続ける。(管理職) ○職場の課題を率直に話し合う。 (職場アンケートを実施し、風通しの良い職場を全員で目指す。) ○個別面談を含め、相談・対話の機会を設ける。 ○部会などによる進捗状況把握の継続 ○職員間のコミュニケーションをとる。	○職場アンケート (5月・9月・12月)
止 学 体 校 制 組 の 織 確 として 立 の 不 祥 祥 事 事 防 防	・不祥事防止委員会や不祥事防止研修がマンネリ化になりがちである。 ・仕事を持ち帰らざるを得ないこともあり、情報の持ち出しについての注意が必要である。	○参画意識を高める不祥事防止研修を実施する。 ○アンテナ高く情報を収集し、校内のヒヤリハットに気付いて発言する。 ○校内の整理整頓に努める ○個人情報漏洩を防ぐ。 ○勤務時間内に業務を終了できるようにする。	○研修の在り方を工夫する。(担当) (自己を見つめる機会・アウトプットの機会を必ず入れる。) ○月曜日にヒヤリハットの交流を行う。 ○学期に1回、職員作業を実施する。 ○情報持ち出し簿・USB 等貸出簿の記載・返却確認を確実に行う。 ○子供と向き合う時間を生み出すための学校運営の工夫を行う。(管理職)	○不祥事防止委員会における振り返り (7月・12月・3月)
相 談 体 制 の 充 実	・体罰・セクハラ相談窓口の周知が掲示のみになっている。 ・SC 活用について児童に十分浸透していない。	○「いのちの安全教育」の確実な実施と相談窓口の周知に努める。 ○児童について全員で語れる職場の雰囲気を維持する。 ○必要に応じて即ケース会議ができる瞬発性を保つ。 ○児童自らが SC への相談を選ぶことができる。	○相談窓口について児童への周知を月初めに行う。(教育相談担当・担任) ○金曜日の児童交流の時間を充実させる。 ○放課後の会議をなるべく減らし、自由に話ができる時間を確保する。 ○「報・連・相」の重要性を常に意識する。	○不祥事防止委員会における振り返り (7月・12月・3月)